



十和田市立中央病院

病院ニュース

さわらび

令和5年新春号



## 新年の挨拶



### 価値観の多様化

十和田市立中央病院  
病院事業管理者

たんのひろあき  
丹野 弘晃

明けましておめでとうございます。年明け早々過去を振り返って恐縮ですが、令和3年新春号のタイトルが「ビヨンドコロナの社会を見据えて」、令和4年が「パンデミックの日常」でした。未だに、コロナ禍は収まりませんので、足掛け4年にもなるわけです。毎年、前年の経験を踏まえての挨拶となるのですが、今年もコロナ関連とならざるを得ませんでした。

ある大学教授によると、2022年は3つの事が起きた歴史に残る年になるだろうとのことでした。1つ目は、ロシアとウクライナの戦争勃発です。これは、自由主義と権威主義の代理戦争とも言えるもので、これまでのグローバル化の流れが止まるだろうとのことでした。2つ目は、リーマンショック以来の米国の金利引き上げだそうです。不勉強でよく分かりませんが、世界経済に大きな影響を及ぼしつつあるようです。そして3つ目が、新型コロナウイルス感染症の終わりの始まり、つまりは感染症法上の扱いを2類相当から5類へ引き下げる議論が始まった年とのことでした。私自身全てではありませんが、概ね納得できる見解でした。

3つ目のコロナ禍に関連しては、人々の生活様式に多大なる影響を与えているとも指摘していました。具体的には、デジタル化の急速な進展と価値観の多様化だそうです。確かにコロナ禍が免罪符となり、結果として紙文化に慣れた抵抗勢力に反対の機会を与える間もなく、一気にデジタル化が加速したように思います。また、日常生活の変化とも強く関連して、価値観の多様化が際立ってきたように感じます。オンラインでの在宅勤務が定着してくると、自宅での生活時間が長くなり、地域とつながる機会や生活環境問題への関心が高まることは必然です。自ずと何に価値を見出すのかを問い直す事になり、価値観の多様化に結び付くことは理解できます。いずれも、コロナ禍によるメリットと言えるのかもしれませんが。

さて、医療・介護への在宅勤務の導入は、エッセンシャルワークということもあるのか、ほとんど進んでいないと思います。しかし、医療介護従事者も、コロナ禍の中で湧き上がってきた価値観の多様化というシャワーをたっぷり浴びています。これは、多様な働き方を受け入れる下地ができていとも考えられるので、医療DXを活用しながら、職場勤務と在宅勤務のハイブリッドワークの導入も現実味を帯びてきていると思います。現在進行中の働き方改革の根っこにあるのは、働きやすい職場環境づくりそのものですので、価値観の多様化との折り合いを如何につけるのかも重要なポイントと考えています。本年もよろしくお願いいたします。

